

先進事例を見る

全国中央会では、中小企業・小規模事業者や組合等連携組織が、新たな事業活動への挑戦や組織体制の見直し等を行う際の参考となるよう、知識や経験、ノウハウの移転・活用につなげることを目的に掲げ、都道府県中央会と連携し、課題解決等に先進的に取り組む組合活動事例について調査・分析、収集・普及を行っており、収集した事例を全国中央会のホームページ（組合事例検索システム）で公開しています。

今回は、平成30年度に行った調査のうち、「青年部による活性化」についての組合事例をご紹介します。

福井県和紙工業協同組合

— 次世代を担う若手職人が越前和紙の新たな魅力を発信 —

住 所	(〒915-0234) 福井県越前市大滝町11-11		
電 話 番 号	0778-43-0875	U R L	http://www.washi.jp/
設 立	昭和25年2月	出 資 金	19,316千円
主 な 業 種	和紙製造	組 合 員	58人

■背景・目的

従来、越前和紙青年部会では後継者育成や展示会の開催、ワークショップの実施など活発な事業活動を展開していたが、和紙産業の停滞により現代に合った商品づくりの必要性を認識し、青年部会メンバーの若い力と発想力で越前和紙を使った伝統と現代の融合した新しい商品をつくり、業界の更なる活性化を目指すこととした。

■取組みの手法と内容

新たな試みに取り組もうと当青年部会は、平成28年に地元出身のインダストリアルデザイナーである渡辺弘明氏や、同氏が非常勤講師を勤めている多摩美術大学の学生と連携し、新ブランド「わしのび」を立ち上げ、第1弾として開発した手帳「角帖」を発売することとした。当青年部会の特徴である『一声掛ければ5分で集まれる地域性』を生かした高いチームワーク性により、仕事の忙しい合間に集まり会議や打ち合わせを重ね商品開発に向けて試行錯誤した。その結果、若者の間で流行していた御朱印集めから発想を得て御朱印帳をモチーフにした角帖をつくることになり、手帳としてだけではなく蛇腹式の伸びを利用した子どもの手形や足形を残す成長記録やフォトフレームなど様々な用途に使用できる商品に仕上がった。若者ならではの感性を取り入れ、表紙をカラフルにするなど若者の好むようなデザインに仕上げたこと、鳥の子紙を使用し、伝統と現代の融合した商品に仕上げたことで、今までにない越前和紙の新しい魅力を発信することに成功した。

また、ブランド立ち上げと角帖の発売を記念して行った記者会見などメディアの活用やギフトショー、ペーパーショーへの積極的な出展は、県内外に越前和紙の技法や魅力をアピールする機会になり、越前和紙の認知拡大に繋がった。

■成果とその要因

角帖の販売を開始してから2年経つが、売上は好調であり、若者の流行を取り入れデザイン性に優れた商品に仕上げたことが成功要因といえる。また、積極的に出展した展示会では組合員の技法に関心が寄せられ、販路拡大に繋がることも期待される。



▲開発された「わしのび 角帖」



▲記者会見の様子(左:渡辺氏 右:当時の青年部会会長)



事業・活動 実現のキーファクター

青年部会メンバーのつながりが深く、そのチームワーク性を活かした商品開発に取り組み、新たな越前和紙の魅力を発信・PRし、業界や組合の活性化に貢献している。